

少女雑誌の部屋から

いよいよ新しい年がスタートしましたね。憂い事がなく心穏やかに過ごせる一年となりますように。

少女雑誌の部屋では、昨年から引き続き『乙女のふろく大集合!!』展を開催しております。かつてお正月の定番と言えば双六、かるたなどでしたが、少女雑誌のふろくとしても長い間親しまれていました。今回展示している中で一番古いふろくは明治44年の「およばれ双六」。日本画家の川端龍子の手掛けた豪華な一品です。描かれているのは超豪邸。門番がいたり、女中部屋や書生さんの部屋があったりと、庶民の生活とは程遠い贅沢な暮らしぶりが窺えます。どうぞすみずみまで眺めて楽しんでくださいね。



雑誌紹介 22

明治30年代～昭和40年代に発行された少女雑誌の中から主なものについてご紹介します

ひとみ (秋田書店) 昭和33(1958)年8月号～昭和36(1961)年4月号

『少年少女冒険王』(のちの『冒険王』)に掲載された福島鉄次作の長編絵物語「砂漠の魔王」で一世を風靡した秋田書店が、その兄妹雑誌として創刊した雑誌。読み物や小説、グラビア写真、漫画などを掲載していた。

『なかよし』(講談社刊)、『りぼん』(集英社刊)の強固な壁に阻まれ、1961年3月に発行された4月号を最後に休刊となった。

昭和53(1978)年、小学校低学年から中学生の少女をおもな読者対象とした月刊少女漫画雑誌として復活するも、平成3(1991)年8月号をもって休刊となる。

少女雑誌を彩った挿絵画家たち 22

藤田 ミラノ (ふじた みらの)

書家・藤田讃陽の長女として香川県に生まれる。本名は久美。

昭和23(1948)年、多摩美術大学日本画科に入学し、在学中から創画会や日展に入選。同大学を卒業後は武蔵野美術大学彫刻研究科へ進む。昭和28(1953)年から『女学生の友』に挿絵を描き始め、人気画家となる。昭和34(1959)年パリへ自費留学。昭和37(1962)年に帰国後は、コバルトブックスや『ジュニア文芸』の表紙絵等を描く。昔ながらの抒情画を現代風にアレンジした立役者とも言える。昭和47(1972)年、再びパリへ。以後、日本の仕事からは離れ、昭和49(1974)年からパリの少女雑誌や絵本の仕事を始める。ペンネームも藤田ミラまたはMIRA FUJITAとし、活躍舞台を世界へ広げた。往年はパリと日本を往復しながら暮らした。

少女雑誌の豆知識

～2冊の新年号～

戦後、用紙事情の好転による増頁、ふろく合戦の果ての販売競争の激化により、少女雑誌の発売日は徐々に早まります。10月の終わりにはもう新年号が出て、12月に入ったかと思う間もなく書店の店頭には2月号が並ぶという状態になったため、混乱を解消すべく出版社同士が自主的に協定を結んで発売日を調整することになったのでした。その方法としてとられたのが、昭和26年の新年号を2度出すという打開策でした。昭和25年11月の新年号の発売から1か月後に特別正月号[※]を出して調整を図りました。[※]雑誌によって表記は異なります